

遠
2378
84

阿讚茂平浮名色揚

龔襲棲辻花染

前編 曲亭馬琴作
歌川豊國画



智者仁人の世をうまひみる後生を憐むを太公にお世話のよき分

楊朱が白糸を悲に只その流り易に爲る墨翟が岐道と刀をち

泣く迷んを思ふ朱に交るの赤くを團炭屋の傭工黒くを十

善海道三悪道右平左平彼方故是方故同さるる必疎不情の流を

色との道不暗き妖迷との説経俗談する中阿讚茂平が情縁艶

曲既に二本のりあれども非義の情不縁に慾ハ模擬するは今その胎を

奪ひ骨を換忠臣烈士の事と綴り書肆の讀を塞ぐの閑者との

序を固くと存よしく奥書に跋目して高評を賜へといふ

文政七年甲申春正月新鑄曲亭馬琴戲述四言

壹



江
花

ての
手臺野
茂平



汗を
つら
義笠



辻の
阿讚

水花
仙文
食や
向
梳



指神子
誰袖



萩井
殿之助
層長





大經寺牧跡太
以春
野
古井
新石をえく
ふんぼく
閑齋



新のつゆ
はらばら
草もよのよ
信天公羽

大經寺
主馬進則秋



内栗典膳
武連

御牧の
垣衣姫



飯台老人
 倒巨樹
 啄木豈得
 埋蒼海
 精衛不可

林塚讀内
 景綱

意氣成撥太

氏編平

瘦狗
 三

大獲
 校吉



鳥鵲是善
 惟惡誰能
 分別狂

三杉不量軒墨應

乳母
 立石



甲斐の宮の郡の那るめふ山井の

人びとをさしおき井の井の
 これ人のいひあはれをさしおき井の
 のぶその人のいひあはれをさしおき井の

いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の

いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の

いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の

いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の



甲斐の宮の郡の那るめふ山井の

人びとをさしおき井の井の
 これ人のいひあはれをさしおき井の
 のぶその人のいひあはれをさしおき井の

いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の

いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の

いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の

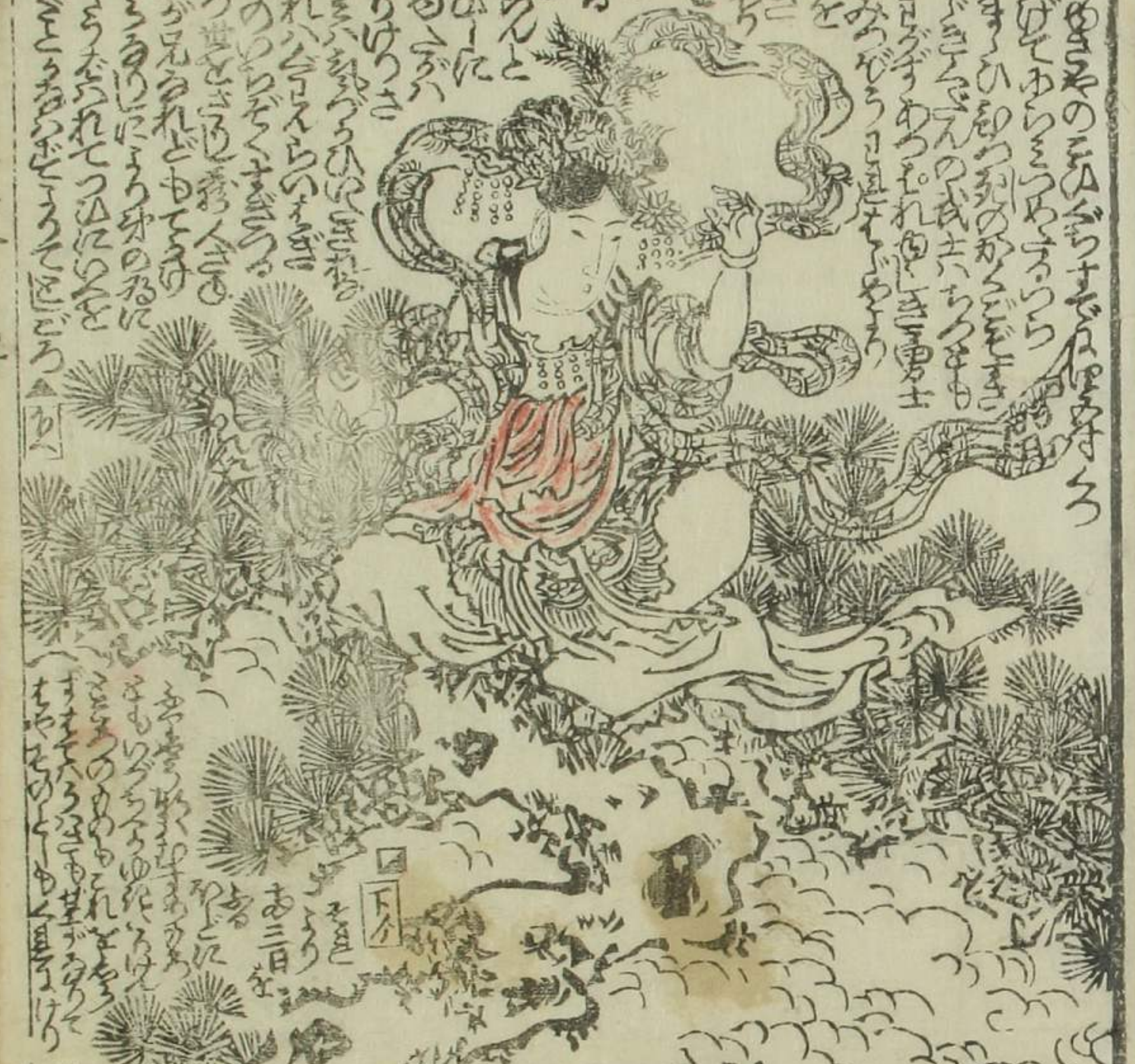
いひあはれをさしおき井の
 いひあはれをさしおき井の

ついでに日かきあやうちうとまきしほく入今八宿さ
ついでに日かきあやうちうとまきしほく入今八宿さ
ついでに日かきあやうちうとまきしほく入今八宿さ



あつちのいんちの
あつちのいんちの
あつちのいんちの

あつちのいんちの
あつちのいんちの
あつちのいんちの



あつちのいんちの
あつちのいんちの
あつちのいんちの

あつちのいんちの
あつちのいんちの
あつちのいんちの





この世は...
 の世は...
 の世は...
 の世は...

この世は...
 の世は...
 の世は...
 の世は...



この世は...
 の世は...
 の世は...
 の世は...

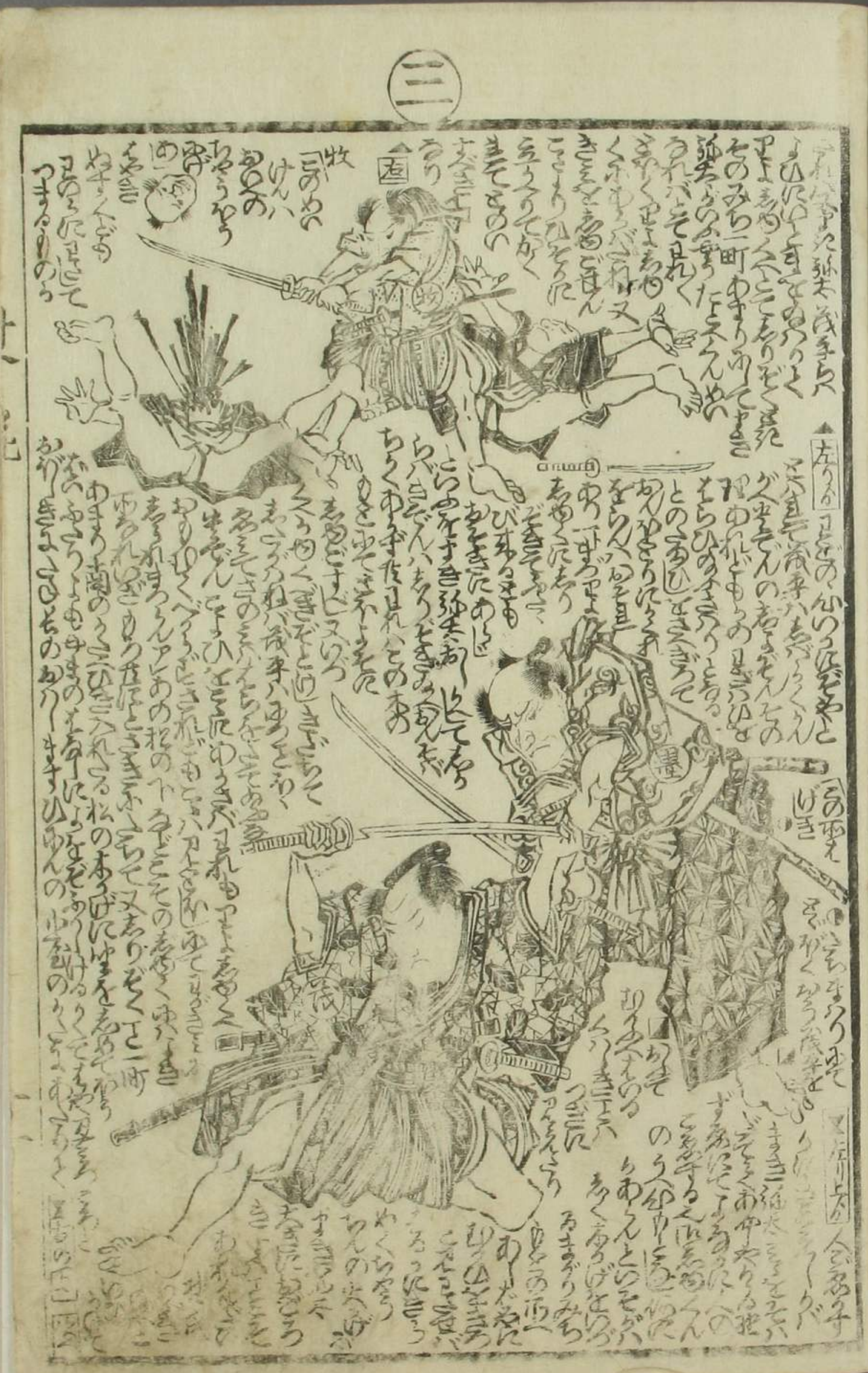
この世は...
 の世は...
 の世は...
 の世は...

Handwritten text in vertical columns, likely a translation or commentary on the illustration. The text is dense and covers most of the page area.



Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or translation. The text is dense and covers most of the page area.







Handwritten text in the top left corner of the illustration.

Multiple columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration, including a small box at the bottom right.



Multiple columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration, including a small box at the top right.

Multiple columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration, including a small box at the bottom right.

甲申新編下



辻花添

辻花

つきてん指あつてあまたににやうさふ
 工さうあれはれれれとらうてをを
 じたいとあなぐのつら
 一まき本にさう兵
 中さくをえてみ
 きのをさつうけり
 つらとれきん肉らう
 てのつらとれれれ
 見れはもあれれ
 方せのさうてふ
 己さんやそめさう
 さそりやめみじはり
 さもれあがのまのめい供
 あそそのたれれらうらめい
 ひそらににまらあせをみり
 うてふあひさあまは内あま
 あまのれあまてふふたにそ
 きるさまてふつらにす
 あそにらりさそそそ
 ぼもえん肉のあまのさ
 ちりあまのあまのさ
 けりさるねにてん指あつて
 たりあまのあまのさ
 けりあまのあまのさ
 けりあまのあまのさ

馬琴今作

豊国画

筆畀 藍庭 留吉

影五 江川 留吉

つきてん指あつてあまたににやうさふ
 工さうあれはれれれとらうてをを
 じたいとあなぐのつら
 一まき本にさう兵
 中さくをえてみ
 きのをさつうけり
 つらとれきん肉らう
 てのつらとれれれ
 見れはもあれれ
 方せのさうてふ
 己さんやそめさう
 さそりやめみじはり
 さもれあがのまのめい供
 あそそのたれれらうらめい
 ひそらににまらあせをみり
 うてふあひさあまは内あま
 あまのれあまてふふたにそ
 きるさまてふつらにす
 あそにらりさそそそ
 ぼもえん肉のあまのさ
 ちりあまのあまのさ
 けりさるねにてん指あつて
 たりあまのあまのさ
 けりあまのあまのさ
 けりあまのあまのさ

馬琴作

甲申開鐫一種奇工
綉像精細越擇工者

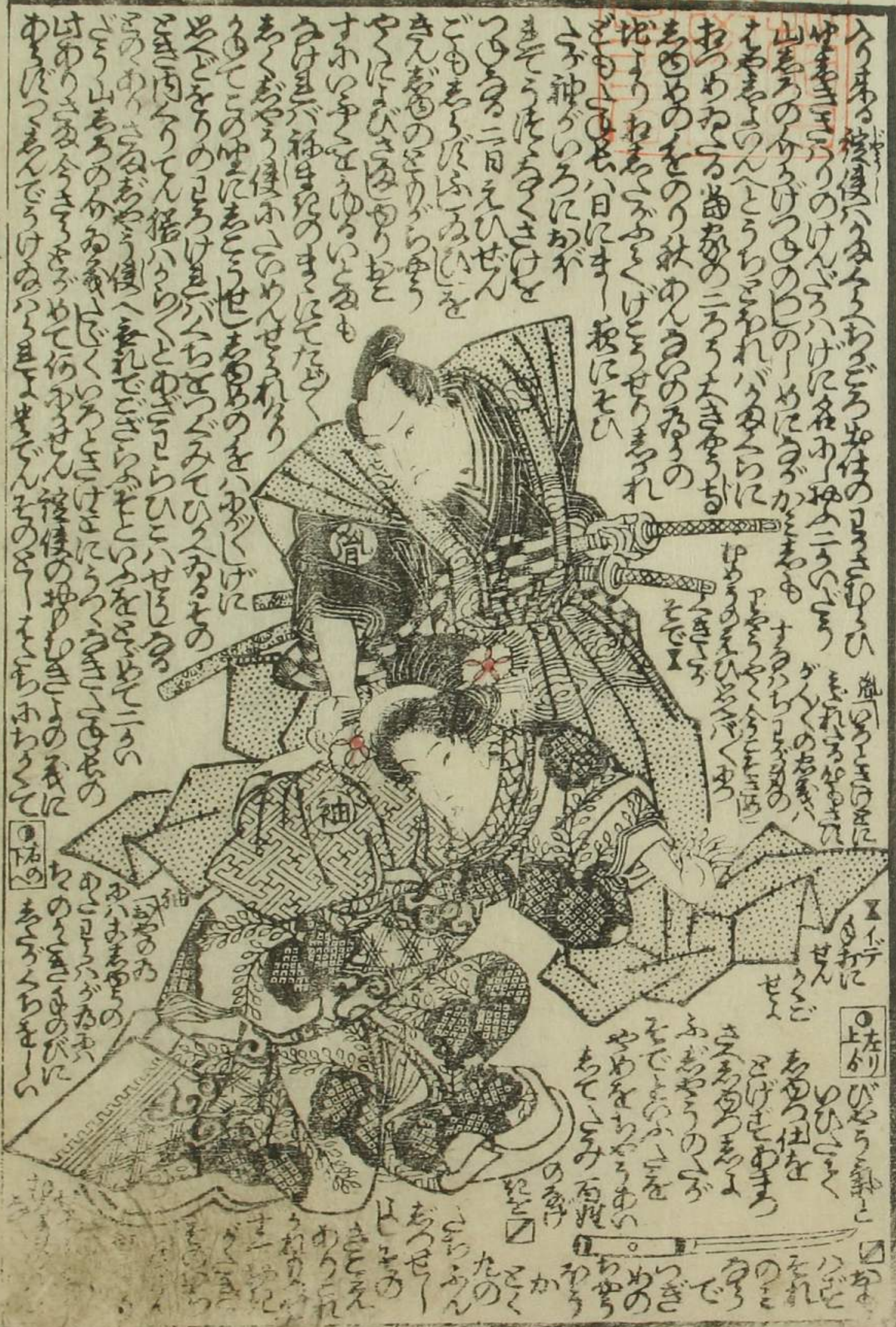
加賀お福後編

豊国画

江戸馬喰町二丁目
永壽堂西村屋與八



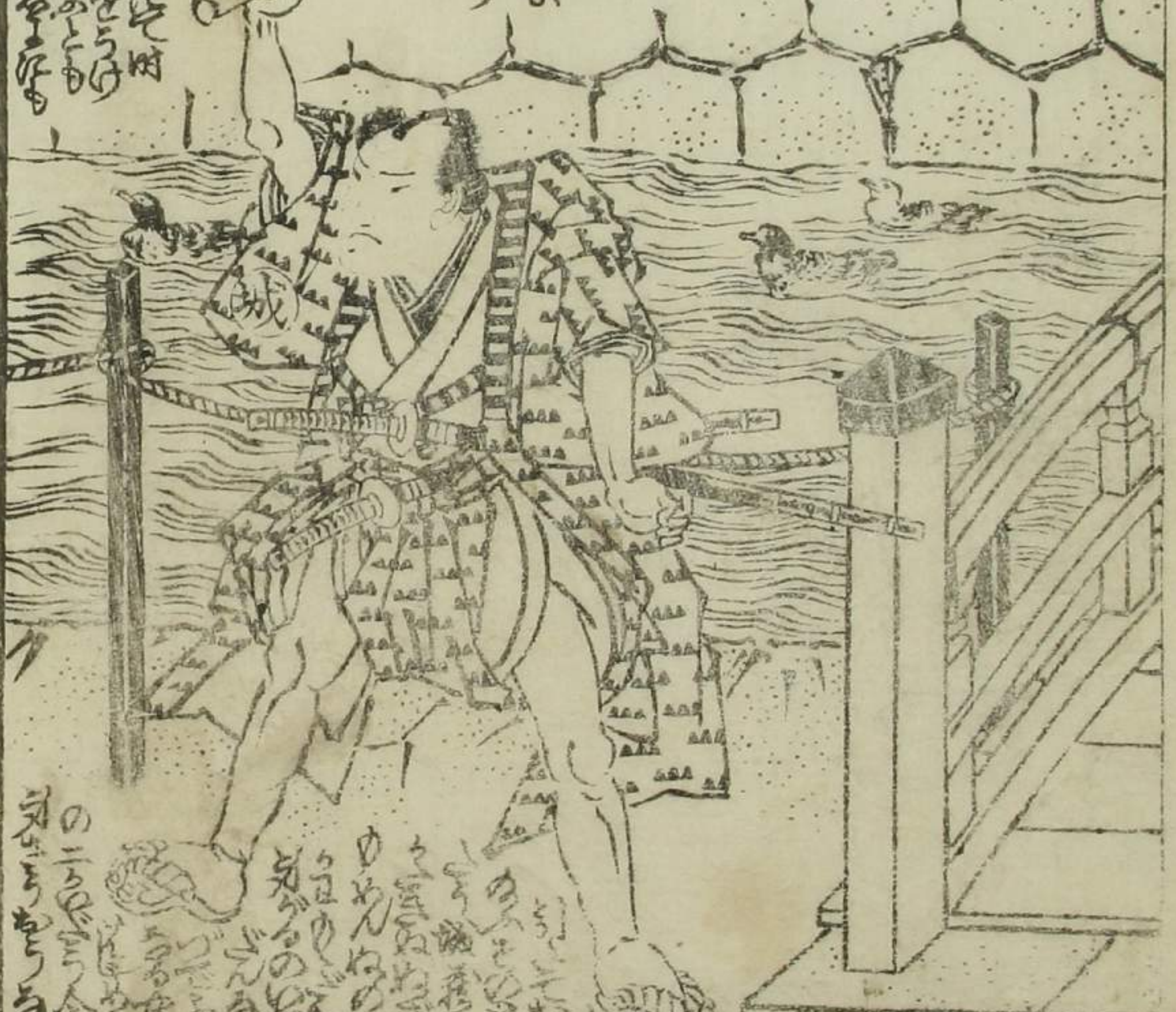
四



十一



Handwritten text in a column on the right side of the top page, likely a title or introductory text for the illustration.



Handwritten text in a column on the left side of the bottom page, providing commentary or a narrative for the illustration.

Handwritten text in a column on the right side of the top page, likely a title or introductory text for the illustration.



Handwritten text in a column on the left side of the bottom page, providing commentary or a narrative for the illustration.

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a narrative, occupying the upper portion of the page.

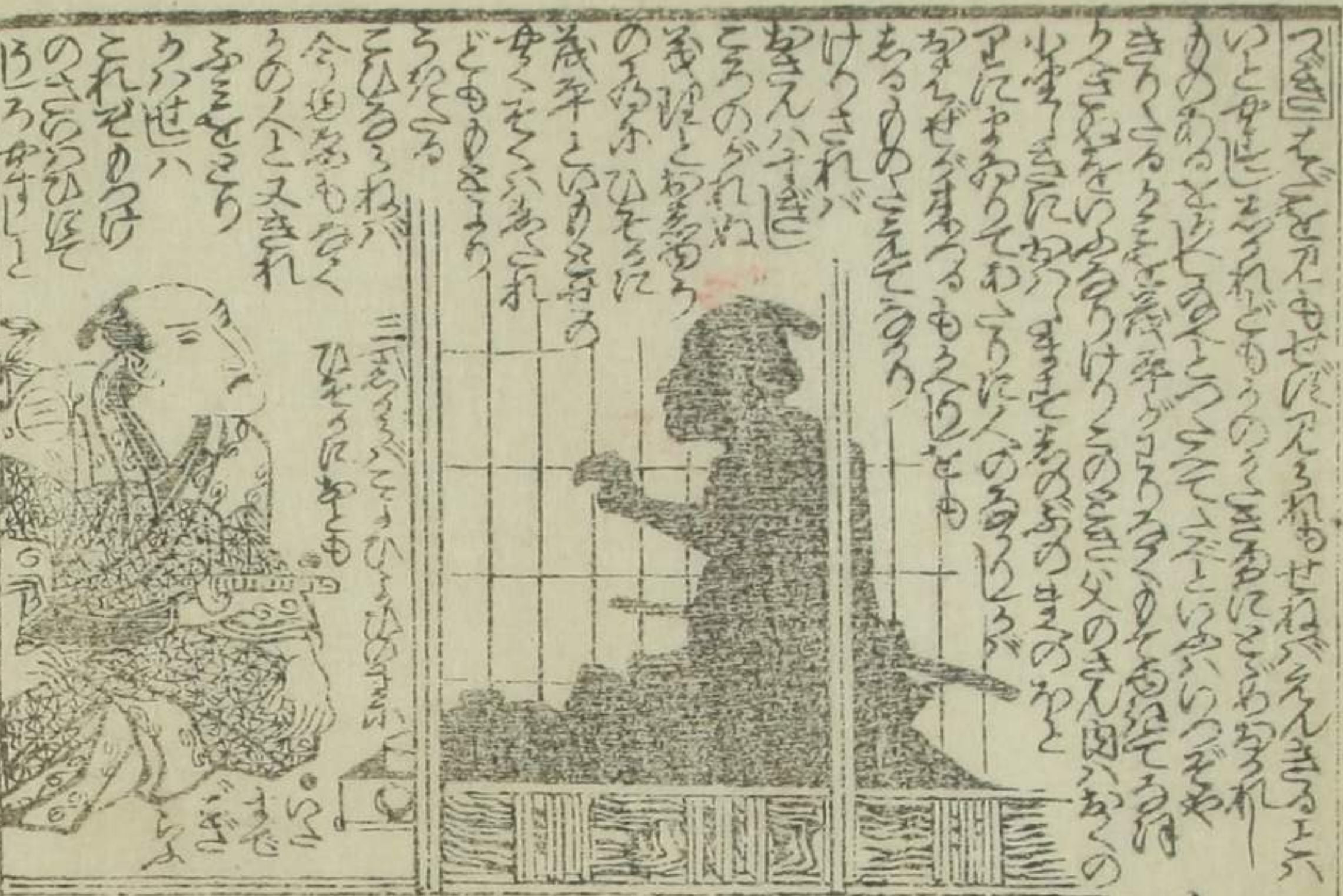


Handwritten text in a cursive style, continuing the narrative or letter, located below the illustration.

Handwritten text in a cursive style, occupying the upper portion of the page on the left side.

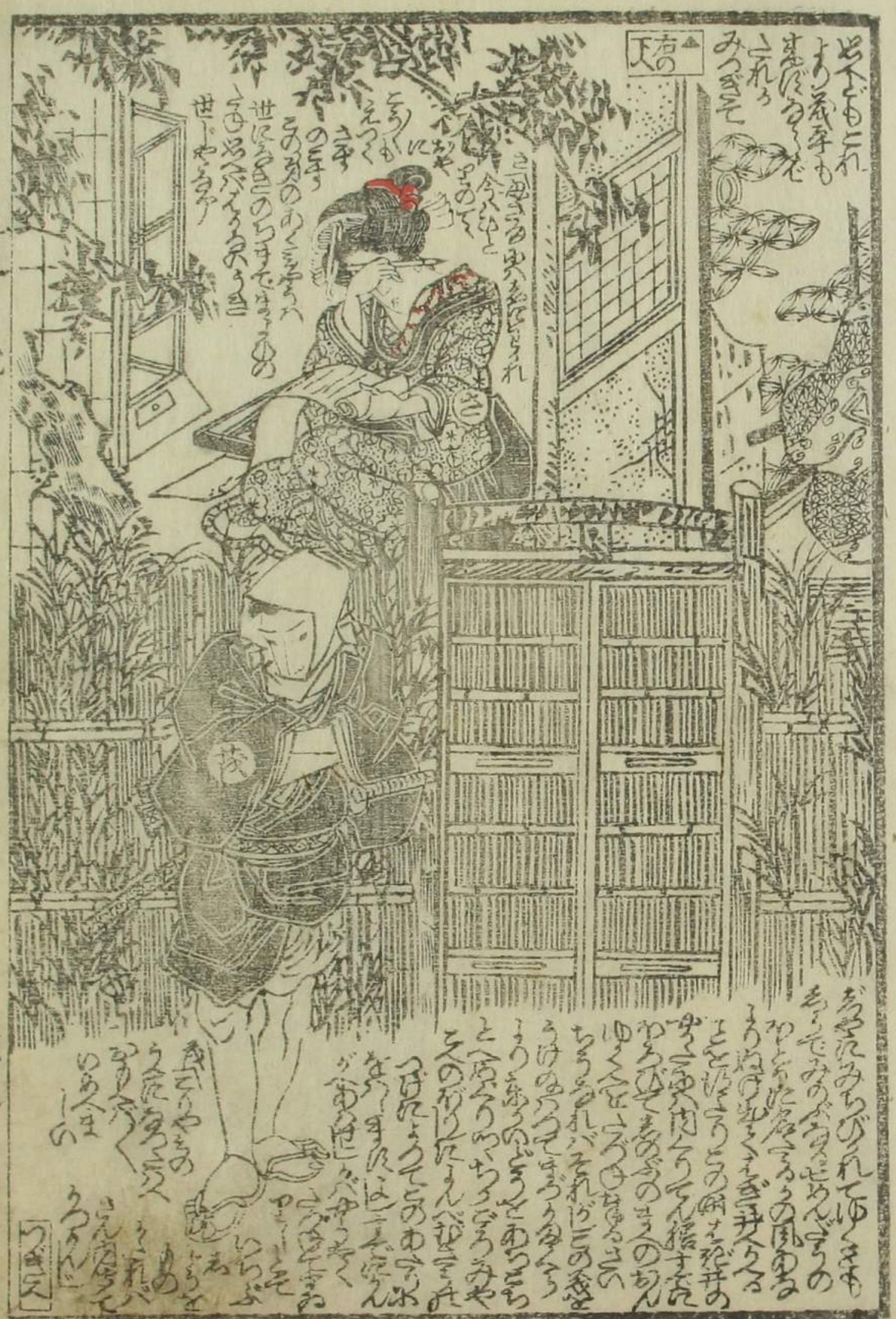


Handwritten text in a cursive style, continuing the narrative or letter, located below the illustration.



右の欄
 世の世は
 世の世は
 世の世は

左の欄
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



左の欄
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

此の物語は、昔の事だと言はれ、
 今も昔も、人の心は、
 変わらぬものだ。

昔、ある村に、
 一人の若者が、
 旅に出た。

旅の途中、
 雨に降られた。

雨は、
 止まらぬ。

若者は、
 困った。

すると、
 一人の老翁が、
 現れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を貸した。

若者は、
 傘を、
 ありがたく、
 使った。

雨は、
 止んだ。

老翁は、
 若者に、
 傘を返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。

旅の途中、
 老翁と、
 別れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を、
 返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。

旅の途中、
 老翁と、
 別れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を、
 返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。



昔、ある村に、
 一人の若者が、
 旅に出た。

旅の途中、
 雨に降られた。

雨は、
 止まらぬ。

若者は、
 困った。

すると、
 一人の老翁が、
 現れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を貸した。

若者は、
 傘を、
 ありがたく、
 使った。

雨は、
 止んだ。

老翁は、
 若者に、
 傘を返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。

旅の途中、
 老翁と、
 別れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を、
 返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。

旅の途中、
 老翁と、
 別れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を、
 返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。



昔、ある村に、
 一人の若者が、
 旅に出た。

旅の途中、
 雨に降られた。

雨は、
 止まらぬ。

若者は、
 困った。

すると、
 一人の老翁が、
 現れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を貸した。

若者は、
 傘を、
 ありがたく、
 使った。

雨は、
 止んだ。

老翁は、
 若者に、
 傘を返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。

旅の途中、
 老翁と、
 別れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を、
 返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。

旅の途中、
 老翁と、
 別れた。

老翁は、
 若者に、
 傘を、
 返した。

若者は、
 傘を、
 大切に、
 持った。



ついでにいふ所の事は... 阿彌陀佛の御名... 御指荷大明神



家傳神女湯... 徳島の御茶... 一包代百銅

精製奇應丸... 大包代五下... 能勝黒丸子... 婦人へは神の妙薬... 一包代五下... 弘野 江尻留町中塔... 全神由明神下同町東名道 龍沢氏

取次所 江戸芝神明前 大坂心井橋筋唐揚町河内や大助

馬琴今作
豊國画



うらなひてなんが死... おん彼にそくの... ありらにこれ... ありらにこれ... ありらにこれ... ありらにこれ... ありらにこれ... ありらにこれ...

筆畊 藍庭晋水 錦堂郎



丑
春
板

臨
周
藏